



## 南が丘中学校区子ども人権フォーラムを開催しました

10月27日（水）南が丘小学校で、小学校5、6年生の代表児童と中学校の代表生徒による子ども人権フォーラムを開催しました。中学校からはMHRのメンバー12人が参加しました。全体会の後、4つのグループに分かれ、中学生が進行役となり、「私にとっての仲間 ～誰もが幸せと感じられる場～」をテーマにお互いの意見や、考えを交流しました。「“いじめ”と“いじり”の違いは？境目は？」「仲間と友達の違いって何？」「今の学級は安心していられる？」など、司会者からの質問に、



「遊びでも本気で言われるとつらい」「今のクラスは間違えても助けてくれたり、励ましたりしてくれる安心できるクラス」という発言や、「見ている人も、いじめている側に見えてしまう。」など、自分自身の体験をもとにした発言もありました。

進行役を務めてもらったMHRのメンバーそれぞれが、小学生の意見を引き出そうと、やさしく、丁寧に相手の気持ちを受け止めながら、話し合いを進めてくれました。お疲れさまでした。

生徒の皆さんにとって、「私にとっての仲間とは？」「誰もが幸せと感じられる場とは？」というものでしょう。そして、皆さん一人一人にとって今の学級は、誰もが幸せと感じられる場になっていますか？自分自身にとって、そして学級の一人一人の顔を思い浮かべながら振り返ってみてください。その答えに対してあなたは何かができますか？

三重県では、毎年11月11日から12月10日までの1か月間を「差別をなくす強調月間」とし、すべての県民の人権が尊重される社会の実現をめざし、人権意識の高揚に向けた啓発活動などに取り組んでいます。

本校においても、こうした趣旨を踏まえ学年ごとに出会い学習を実施しています。人との出会いを通して人権問題をより身近なものとしてとらえ、自分自身の生き方を考える学習を進めています。ご家庭でも子どもたちが授業でどのように感じ、考えたのか、自分自身どのような生き方をしているのか、ぜひ子どもたちの素直な思いに耳を傾けてみてください。

## 大切な相棒

テレビドラマではありません。4月に一人一人に貸与されたタブレット端末のことです。授業で使用する頻度も増え、それに伴い破損件数も増えているようです。津市全体では、タブレットを家庭に持ち帰って使用した9月中旬に破損した台数が、1学期中に破損した台数を大きく上回る状況になっているとのことです。

改めて、皆さん自身のタブレットの使い方を振り返ってみてください。

- ☐ タブレットを大切に扱っている。
- ☐ 机を整頓し、机の中央で操作している。
- ☐ 持ち運ぶときは両手で持ち、慎重に扱っている。



これまでの事例では、机からはみ出た状態でタブレットの画面を操作し、バランスが崩れて落下したり、画面を脱着した際、しっかりと固定されていない状態で手を放し、画面が落下したりすることがありました。（タブレットの画面を脱着するときは、画面を閉じたままスライドさせると、確実に脱着することができます。）また、他校では、教室移動時にタブレットを持った状態でちょっか

いをかけあって落としたり、タブレットを家へ持ち帰った際に、いつもの習慣でカバンを雑に扱い破損させてしまったりすることもおきています。

どんなに注意をしても、破損してしまうことはあります。そんなときは、小さな破損であっても、必ず先生に報告してください。また、パスコードの誤入力も 10 回繰り返すと、業者による復元作業が必要となります。4～5 回入力してタブレットが立ち上がらない場合も、必ず先生に報告してください。一旦、修理が必要となると、1 か月以上の期間が必要となります。また、破損に至った状況によっては、皆さん自身（おうちの方）に修繕費を負担していただくこともあります。

タブレットは皆さんの大切な相棒です。今年の 4 月、新品のタブレットを手にした気持ちを忘れずに、次の 1 年生が気持ちよく受け取ることができるように使ってください。

これは、皆さんが学校で使っている道具や、施設にも当てはまることです。当たり前ではなく、感謝の気持ちを忘れずに。



## ボランティアの皆さんありがとうございます

10 月末の 3 日間、2 年生の家庭科のミシンを使う場面で、学習ボランティアの方々にご協力をいただきました。子どもたちのヘルプを求める声に、糸の通し方や、操作方法など丁寧に指導していただきました。11 月には 1 年生の技術科の木工作品作りで、のこぎりを扱う場面でご協力をいただきます。

また、図書館ボランティアの皆さんの活動も再開され、10 月 27 日（水）には、20 名弱の皆さんに集まっていただき、図書の整理をはじめ、図書室をハロウィン仕様・秋仕様に飾り付けていただきました。



## 全国ワースト 1 位から全国 7 位へ

何の順位かわかりますか？これは、近年話題となっている信号機が設置されていない横断歩道で、歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止する運転手の割合についての三重県の順位です。2019 年の調査では、三重県は 3.4% で全国ワースト 1 位であったところ、今年の調査では、47% で全国 7 位と大幅に改善したそうです。全国平均は 30.6% で、こちらも前年から 9.3 ポイントの改善でした。ただ、横断歩道での歩行者優先は義務であり、三重県警察では、100% を目指して注意喚起を行っていくとのことです。現在、三重県警察では、「横断歩道“ハンドサイン”キャンペーン」と銘打って、歩行者が横断歩道をわたる際、少し手を上げたり、顔を向けたりするなどして運転者に、意思表示をすることを促すキャンペーンを展開しています。ハンドサインで車の停止率がアップするというデータも示されていますが、手を上げたから大丈夫ではなく、車が停止したことをしっかりと確認することはもちろん、反対方向からの車も確認した上で、横断歩道をわたってください。わたり終えた際は、運転者への「ありがとう」の意思表示もお忘れなく！



また、7 月に地区委員さんにまとめていただいた、南が丘地区安全に対する意見・要望の中で、「下校時の生徒が歩道から車道まで広がって歩いたり、ふざけて押し合いをしている子がいます。ヒヤリとする場面が見られますが、悪びれた様子もなく、笑っている子もいて危険」というご指摘をいただいています。交通安全については、時機をとらえて注意喚起を行っていますが、改めて自らの命を守るために、基本的な交通ルール・交通マナーを守る行動を取っていきましょう。下校時に、坂道をダッシュで駆け下りていくあなた、そのダッシュは危険です。

毎日のお知らせや、子どもたちの学校での様子をホームページに掲載していますのでご覧ください。生徒・保護者向けのページ（要ログイン）では、学年だより、部活の月間活動予定などを見ていただくことができます。ホームページアドレス… <http://ednet.res-edu.ed.jp/c-minamigaoka/>